

教室が89も足りない！

▶全国的に特別支援学校の児童・生徒数の増加が進んでいます。この10年間に在籍者は10年前の約**1.23倍**になり、全国で不足している教室数は、令和元年の文科省調査でも**3,162**教室にのぼっています。この事実は、**学校建設が極めて不十分**なことを示しています。茨城県にあっては、「県立特別支援学校の幼児児童生徒数は……この10年間で694人増加し、令和元年度は3,963人（平成21年度の約1.2倍）」となっています。そして、普通教室の不足教室数は、令和元年度で**89教室**（知的障害校81、肢体不自由校8）に及んでいます。

廊下が教室？！

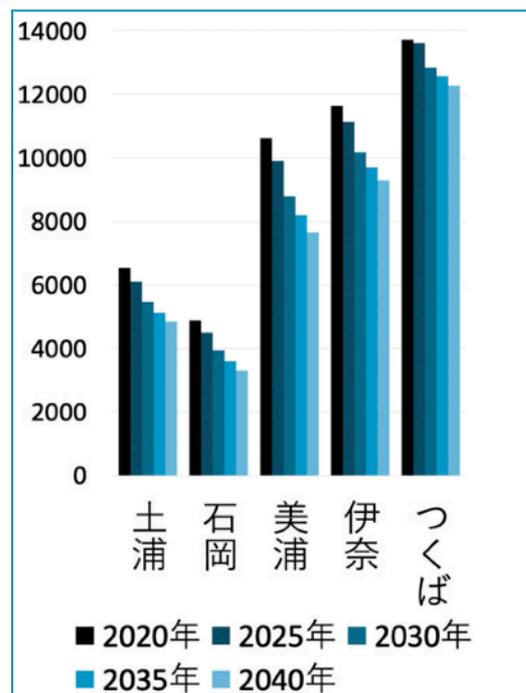
▶教室確保のために、**廊下の隅まで教室にしたり**、一つの教室を**パーティション等で分割**したり、図書室などの**特別教室を普通教室に転用**したりしています。仕切った教室はとても狭い上に、**隣のクラスの先生や子どもの声が筒抜け**になり、落ち着いた授業にはなりません。特別教室がほとんどない学校では、**音楽も、図工・美術も、普通教室**で行わなければなりません。体育館や音楽室を使用できる回数も少なくなります。給食も必要数を作れなくなります。

学級数が100！！

▶これらの解決策としての茨城県教育委員会は「**校舎を増築**」との方針（いばとくプラン、2020年2月）を出しています。しかし、「校舎の増築」では、教室不足は改善しても、**過大過密は改善できない**ばかりか、より深刻になります。例えば、つくば特別支援学校では、平成元年度で児童生徒数は356人（知的障害242人、肢体不自由114人）で、**学級数は100クラス**（つくば特別支援学校ホームページより、令和2年度現在）ある大規模校です。学級数が100の学校など、通常の小中学校では考えられません。

ほんとうに子どもの数は減るの？

▶人口問題研究所のデータから各特別支援学校の通学区域の5歳～9歳人口を集計するとグラフ1のようになります。つくばに関しては肢体不自由部門通学区域の人口に比率（知的／肢体）をかけて加算しました。結果、つくば特別支援学校は**25年後においても高い水準**です。「校舎の増築」で間に合わせることは無理です。



グラフ1

●Zoomによるオンライン学習会を開催します。

参加費は、無料です。

	開催日	内容等
第1回	10月23日(金) 19:00~20:00	● 請願の趣旨説明
第2回	11月1日(日) 14:00~15:00	● 報告(30分) 寺門宏倫さん(全障研茨城支部) 「いばとくプランで、特別支援学校問題は解決するか？ 特別支援学校の新設こそ必要！」
第3回	11月14日(土) 14:00~15:00	● 質疑(20分) * 3回とも同じ内容です。
申込み	希望日、氏名、ズームで参加するメールアドレス、電話番号(アクセント対応のため当日つながるもの)を記載の上、希望日の1週間前までに、下記のアドレス宛お申し込みください。 shantitsukuba298@gmail.com 当日の問い合わせ 船橋秀彦 080-5493-3339	

▶ Zoomの会議にはスマホ、タブレット、パソコンのいずれかがあれば参加できます。接続はホスト(船橋)から、開始時刻の**30分前**に招待メールをお送りしますので、そこに記されたURLをクリックしてご参加ください。

*パソコンにカメラとマイクが付いていない場合は、外付けでウェブ用のカメラとマイクが必要になります。

